

都道府県名	和歌山県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	印南町立清流中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	11
生徒数	20	34	31	0	85	

研究の概要

1. 研究主題

習熟度別授業の導入と評価規準に基づく授業づくりをめざして
------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1、2、3学年数学（子どもの理解度に差が出やすい教科）</p> <p>1、2、3学年英語（子どもの理解度に差が出やすい教科）</p> <p>1学年国語（「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成し、個に応じた指導を研究するため）</p> <p>1学年社会（「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成し、個に応じた指導を研究するため）</p> <p>1学年保健体育（「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成し、個に応じた指導を研究するため）</p> <p>3学年理科（「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成し、個に応じた指導を研究するため）</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平	テーマ
成	習熟度別授業の導入と評価規準に基づく授業づくりをめざして
14	研究の見通し（仮説）
年	一人一人の学習到達度を、1単位時間ごとの評価規準に基づいて評価し、必要に応じ手だてをする。さらに数学科と英語科で生徒自ら選択する習熟度別授業を導入すれば、一人一人の主体的な学びと確かな学力が身に付くと考える。
度	研究の内容・方法
	<p>国語科・社会科・数学科・理科・英語科・保健体育科の6教科において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した年間指導計画を作成する。</li> <li>・1単元に重点を置いて、「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成し、それを基にして指導方法・指導体制と評価方法を工夫改善する。</li> <li>・1単位時間ごとの評価規準に基づいて、生徒一人一人の学習到達度を分析的に評価する。</li> <li>・生徒一人一人の観点別学習状況を評価規準に基づいて把握し、特に「努力を要する」と判断される生徒への対応・手だてを工夫する。</li> </ul> <p>・研究教科・単元等</p> <p>国語科（1年 古典に親しもう）、社会科（2年 日本の資源と産業はどうなっているのだろう）、数学科（1年 比例と反比例、3年 図形と相似）、理科（2年 気候の変化）、英語科（1年 アメリカの学校から）、保健体育（3年 バスケットボール）</p> <p>中心教科である数学科・英語科の2教科において</p>

- ・数学科 1、2年 一斉授業、T・Tによる授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重する。  
3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重し、少人数授業は生徒の出席番号(奇数と偶数)によって2グループに分割する。
- ・英語科 1、2年 一斉授業、T・Tによる授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重する。  
3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重し、少人数授業は生徒の出席番号(奇数と偶数)によって2グループに分割する。
- ・習熟度別授業の「基本コース」と「普通・発展コース」において、生徒の学習活動を活性化できるよう教材・教具の開発と評価方法についての実践的研究に取り組む。

#### 指導案の作成

国語科・社会科・数学科・理科・英語科・保健体育科の6教科において、生徒に身に付けさせたい資質・能力と、実際に生徒を評価する場面での「努力を要する」と判断された生徒への手だてや「十分満足できる」と判断される生徒の視点を明確にするために、1つの単元に重点をおいて「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成した。

また、それを基にして1単位時間ごとの授業内容と、あらかじめ考えた教材や確認テスト、補助プリントなどの内容を具体化した単元の一連の展開を示す指導案を作成した。

例えば、数学科と英語科の資料で示したように、学習課題を「発問のこぼし」で表記する、作成した評価規準と「教科書の問題」を特に対応させるように工夫する、より具体的な指導の手だてをするために「課題に応じた評価規準」を明記する、など指導に生かす工夫を工夫した。

#### 指導と評価の実際

6教科において、上記の指導案に基づく学習指導と観点別学習状況の評価を行った。

例えば、数学科では評価活動において、一旦「努力を要する」と判断された、あるいは「おおむね満足できる」と判断された生徒に、再指導あるいは手だての工夫を行うことにより、生徒に変容が見られた場合は評価を補正することにした。

「努力を要する」と判断される生徒への対応・手だて

6教科において、あらかじめ「努力を要する」と判断される生徒への具体的な対応・手だてを指導案に記載しておき、対応した。さらに、数学科と英語科の2教科については習熟度別授業を行うことによって対応した。

#### 習熟度別授業の導入

数学科、英語科の2教科では、ある程度の学習後、理解や習熟の程度に差が付きはじめたころに習熟度別授業を導入し、つまづきが見られたり、学習に遅れたりしがちな生徒に対する補充的な学習を行う「基本コース」と学習内容の理解を深め、確かな根拠を基に論理的に考える力を一層伸ばしていく「普通・発展コース」を設け、学級集団を分けて指導した。

なお、学習コースは、生徒一人一人の自己評価と授業者との相談(助言)によって選択させるようにし、他の力に頼ることなく自分の力で考えることや、学び、考えることを楽しむ心を育てるようにした。

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>習熟度別授業の導入と評価規準に基づく授業づくりをめざして 研究の見通し</p> <p>一人一人の学習到達度を、1単位時間ごとの評価規準に基づいて評価し、必要に応じ手だてをする。さらに数学科と英語科で生徒自ら選択する習熟度別授業を導入すれば、一人一人の主体的な学びと確かな学力が身に付くと考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>国語科・社会科・数学科・理科・英語科・保健体育科の6教科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14年度作成した年間指導計画を見直して授業を行い、指導方法・指導体制や評価方法を工夫改善する。</li> <li>・平成14年度とは別の1単元に重点をおいて、「評価規準」や「指導と評価の計画」を作成し、それを基にして指導方法・指導体制と評価方法を工夫改善する。</li> <li>・1単位時間ごとの評価規準に基づいて、生徒一人一人の学習到達度を分析的に評価する。</li> <li>・単元のはじめに、レディネステストを実施することにより、事前に生徒の習熟の程度を把握しておく。また、単元テストを事前に作成しておくことにより、生徒に身に付けさせるべき内容を把握しておく。</li> <li>・単元の終わりに、生徒一人一人の観点別学習状況を生徒に知らせる。</li> </ul> <p>研究教科と単元等</p> <p>国語科(1年 身近な題材で書こう)、社会科(2年 日本の都道府県には、どんな特色があるのだろう)、数学科(1年 平面図形、2年 図形と合同)、理科(3年 自然と人間)、英語科(1年 Unit 9 ようこそオーストラリアへ、2年 Unit 7 My Favorite Movie)、保健体育科(1年 バドミントン)</p> <p>中心教科である数学科と英語科の2教科において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学科 1年 一斉授業、T・Tによる授業、習熟度別授業を組み合わせる。 なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重する。</li> <li>2、3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重し、少人数授業は生徒の出席番号(奇数と偶数)によって2グループに分割する。</li> <li>・英語科 1年 一斉授業、T・Tによる授業、習熟度別授業を組み合わせる。 なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重する。</li> <li>2、3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせる。なお習熟度別授業は生徒の希望を尊重し、少人数授業は生徒の出席番号(奇数と偶数)によって2グループに分割する。</li> <li>・習熟度別授業の「基本コース」と「普通・発展コース」において、生徒の学習活動を活性化できるよう教材・教具の開発と評価方法についての実践的研究に取り組む。</li> </ul> <p>指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>6教科において、昨年度作成した年間指導計画を基に、学習内容の違いに応じたより効果的な指導方法・指導形態を模索しながら授業を進めた。その結果、一斉授業は学級全員で多様な意見を発表しあうとき、T・Tによる授業はそれに加えて個に応じた指導を行うとき、</p>
--------	--

少人数指導は少ない人数で基礎・基本を徹底したり、実験や観察をしたりするとき、習熟度別授業はさらに習熟の程度に応じてきめ細かな指導を行うとき有効であり、より効果的な授業形態で授業を行っている。 【資料】

#### 平成14年度作成した指導案の検証

6教科において、平成14年度作成した指導案について、「評価規準」、「指導と評価の計画」、1単位時間ごとの授業内容やあらかじめ考えた教材や形成的評価について検証しながら授業を行った。

#### 別の1単元の指導案の作成

6教科において、生徒に身に付けさせたい資質・能力と、実際に生徒を評価する場面での「努力を要する」と判断された生徒への手だてや「十分満足できる」と判断される生徒の視点を明確にするために、昨年度とは別の1単元に重点を置いて、「評価規準」と「指導と評価の計画」を作成した。また、それを基にして1単位時間ごとの授業内容と、あらかじめ考えた教材や形成的評価などの内容を具体化した単元の一連の展開を示す指導案を作成した。

【資料】 【資料】

#### 指導と評価の実際

6教科において、上記の指導案に基づく学習指導と観点別学習状況の評価を行った。

1単位時間の授業では、「努力を要する」と判断される生徒をまず見出し、机間指導等で説明し手だてをする。また、「おおむね満足できる」と判断される生徒には類似した課題を与え、その課題をやり終えた生徒にはさらに考えが広がるような発展的な課題を提示している。

#### 《1単位時間の授業時間内での評価の仕方》

努力を要すると判断される生徒

おおむね満足できると判断される生徒

十分満足できると判断される生徒

何らかの手だてをする。 類題を与える。 発展問題を示す。

また、評価活動において、いったん「努力を要する」と判断された、あるいは「おおむね満足できる」と判断された生徒に、再指導あるいは手だての工夫を行うことにより、生徒に変容が見られた場合は評価を補正することにした。 【資料】

その再指導あるいは手だての方法としては、授業中の机間指導の他に、休憩時間や放課後等を充てた。そして、その時間帯に他の教科との重なりを防ぐ工夫として、教科シールを時間割黑板にはるにより、指導する時間帯や対象生徒の重なりを避けた。

したがって、平成15年度は全単元で平成14年度研究した視点での授業が可能なので、年間を通して、国立教育政策研究所の「評価規準の具体例」を参考にして評価の計画をたて、各時間ごとに評価し、指導に生かしてきた。 【資料】

#### レディネステストの実施

レディネステストを実施し、その結果を分析することにより、これから学習する内容が生徒にとって難しすぎないか否か、また、既習内容が身に付いていない生徒を見出し、その生徒にどのような指導をしていくべきか等検討した。

また、単元末テストを事前に作成することにより、生徒に身に付けさせるべき内容を明確にした上で授業を行った。

### 生徒一人一人の観点別学習状況

1 単位時間ごとに評価規準に基づいた授業を行い、また、一旦評価した後も再指導または手だてをすることにより補正を行い、また、単元末テストによる補正も行った。その観点別学習状況を学期末の評価として生徒に知らせた。 【資料】

#### 数学科と英語科における習熟度別授業

数学科と英語科の2教科では、「教材の内容に応じて」または「生徒の学習状況の違いに応じて」習熟度別授業を行った。

「教材の内容に応じて」習熟度別授業を行う場合は、先に課題を示し、その特徴や難易度または説明の仕方によるコース分けをしている。「生徒の学習状況の違いに応じて」習熟度別授業を行う場合は、ある程度学習し理解や習熟の程度に差が付きはじめたころ、つまずきが見られたり、学習に遅れがちな生徒に対する補充的な学習を行うコースと、学習内容の理解を深め、確かな根拠を基にして論理的に考える力を一層伸ばすコースを設けている。

なお、学習コースは、生徒一人一人の自己評価と授業者との相談(助言)によって選択させるようにし、他の力に頼ることなく、自分の力で考えることや、学び、考えることを楽しむ心を育てるようにした。 【資料】

#### 習熟度別授業における教材、教具と評価方法

数学科における教材、教具は、「基本コース」はできるだけ具体物を使い操作活動を多く取り入れ、そこから抽象化していけるようにした。「普通・発展コース」は、できるだけ具体物は使用しないで学習させるようにした。

英語科における「基本コース」は、基本文の練習問題に数多く取り組み、基礎・基本が身に付くよう、「普通・発展コース」は、さらに本文の内容についての Question and Answers などを加え表現力が身に付くようにした。

評価方法については、担当者で打ち合わせをし、同じ評価規準で評価をした。例えば、形成的評価(小テスト)やノート点検は、両コースとも一人の教師で点検をした。また、授業時間内の観察については、授業のあと「十分満足できる」と判断される生徒、「努力を要する」と判断される生徒について情報交換してきた。

### テーマ

平成 16 習熟度別授業の導入と評価規準に基づく授業づくりをめざして  
研究の見通し

一人一人の学習到達度を、1 単位時間ごとの評価規準に基づいて評価し、必要に応じ手だてをする。さらに数学科と英語科で生徒自ら選択する習熟度別授業を導入すれば、一人一人の主体的な学びと確かな学力が身に付くと考える。

#### 研究の内容・方法

国語科・社会科・数学科・理科・英語科・保健体育科の6教科

- ・平成15年度作成した年間指導計画や指導方法、指導体制を検証し、よりよい年間指導計画や指導方法、指導体制を探っていく。
- ・一昨年度、昨年度とは別の1単元に重点を置いて、「評価規準」や「指導と評価の計画」を作成し、それを基にして指導方法、指導体制と評価方法を工夫改善する。
- ・生徒一人一人の学習到達度を1単位時間ごとの評価規準に基づいて把握し、特に「努力

を要する」と判断される生徒への対応・手だてを工夫する。さらに、生徒一人一人の観点別学習状況を生徒に知らせる。また、その簡便な方法について研究する。

- ・ 単元のはじめにレディネステストを実施し、事前に生徒の習熟の程度を把握しておくとともに、単元末テストを事前に作成し、生徒に身に付けさせたい力を焦点化しそれを指導に生かしていく。

- ・ それぞれの授業形態に応じた、また生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じた、補充的、発展的な学習のための教材の開発について研究していく。

中心教科である数学科・英語科

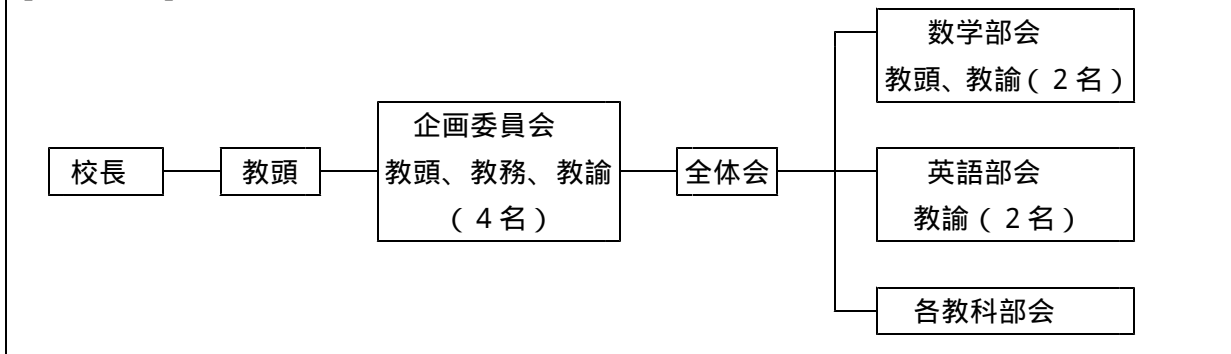
- ・ 数学科 1年～3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせ実施する。なお、習熟度別授業は「次」単位の評価と生徒の希望による。

- ・ 英語科 1年～3年 一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業を組み合わせ実施する。なお、習熟度別授業は「次」単位の評価と生徒の希望による。

- ・ 習熟度別授業の「基本コース」と「普通・発展コース」において、生徒の学習活動を活性化できるよう教材・教具の開発と評価方法についての実践的研究に取り組む。

### (3) 研究推進体制

[ 研究組織 ]



平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

(1) 補充的・発展的な学習のための教材等の工夫について

- ・ 1単位時間内に「努力を要する」と判断された生徒への手だてについては、平成14年度は補助プリントを手渡す計画を立てて実施した。しかし、その生徒たちにとっては、その補助プリントを読み理解するのに時間がかかることが多かった。そこで平成15年度は、教師による机間指導で生徒に合った適切な助言を行うことが最も効果的であることが分かってきた。

(2) 習熟度別授業等の工夫について

- ・ 平成15年度においては、さまざまな授業形態(一斉授業、T・Tによる授業、少人数授業、習熟度別授業)で授業を行ってきた。その結果、教科によっては、学習内容や教材によって適切な授業形態が明らかになってきた。

【資料】 【資料】

(3) 評価規準の作成、評価方法の工夫について

- ・ 平成14年度は、評価規準を作成し、それに基づく授業づくりや評価を生かして手だてをすることは試行錯誤の連続であった。しかし、平成15年度は評価規準を考えた学習指導案作成

にもかなり慣れてきた。また、昨年度の研究単元を授業で検証していくことにより、B規準がより明らかになった。 【資料】 【資料】

・平成15年度は、単元レベルで4観点(5観点)バランスよく評価規準項目を設定することにより、1単位時間内の評価が可能となってきた。 【資料】

・「努力を要する」と判断された生徒への手だての方法を工夫したことで、休憩時間や放課後等を活用して対象の生徒にゆとりをもって指導することができるようになった。 【資料】

・レディネステストを実施することにより、既習内容の定着度や生徒一人一人のつまづきをとらえることができ、指導に生かすことができてきた。

・レディネステストや単元末テストの内容を教師全員で検討することにより、関心・意欲を高める問題内容や適切な発展的問題内容がよく分かってきた。また、単元末テストを単元のはじめにあらかじめ作成しておくことで、単元において生徒に身に付けさせたい力が焦点化できるようになってきた。

#### (4) その他

・すべての教師で教科指導について協議することにより、教師の経験の違いや担当教科の枠を越えてお互いが学び合う雰囲気が出てきた。

## 2. 今後の課題

### (1) 補充的・発展的な学習のための教材等の工夫について

・各教科でのそれぞれの授業形態に応じた、また生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じた教材開発は、今後まだまだ研究する必要がある。

### (2) 習熟度別授業等の工夫について

・習熟度別授業では、生徒が自己評価により、自分自身でコースを選択している。しかし、生徒によっては自分の判断に自信がもてないためか、教師が助言しても「基本コース」を選択しがちである。今後は、生徒自身が自分に適したコースを的確に選択する能力を高めていく取り組みが重要である。

・習熟度別指導を行う際の実施時期や学習課題設定等の工夫、評価について、特に個人内評価のあり方について、細部検討し実践する必要がある。

### (3) 評価規準の作成、評価方法等の工夫について

・実践研究を進めるにつれて、教材の選び方、教材の提示の仕方、発問の仕方、間の取り方等授業の原点に戻って研究を深める必要がある。

・評価規準をもとに、生徒一人一人の学習到達度を的確に把握し、指導に生かしていく工夫や小単元などで補正をしていく簡便な方法として、平成15年度は、年間指導計画に評価規準や評価方法を記入し、授業後は実践記録として残してきた。今後はより一層活用しやすく簡便な年間指計画や評価計画の様式なども工夫する必要がある。

## 学力把握のための学校としての取組

### ・和歌山県学力診断テストを実施

調査の目的 学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るため、学力診断を行い、学習指導に関する課題を明らかにし、指導方法等の工夫改善に生かしていく。

実施内容 各学年における前学年までの学習内容及び平成15年7月末までの学習内容

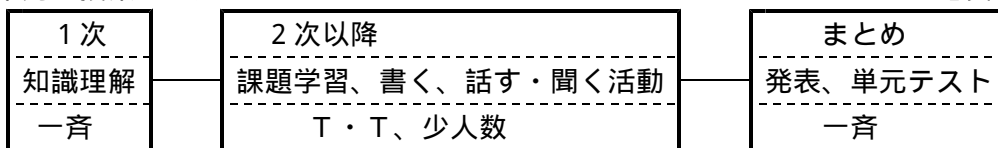




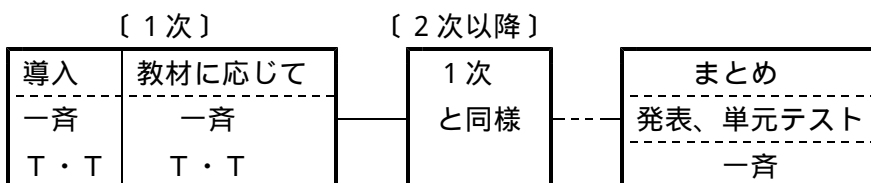
各教科の1単元の授業モデル

【資料】

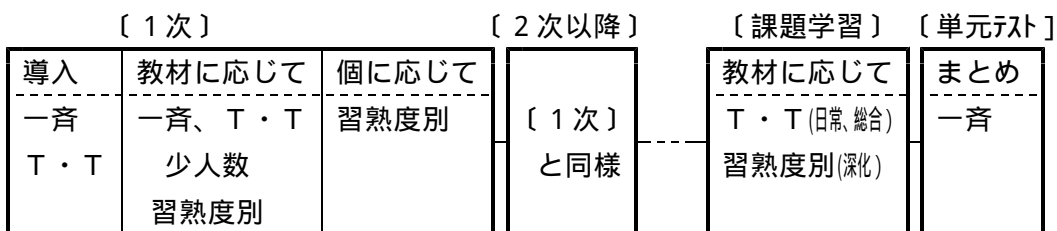
〔国語科〕



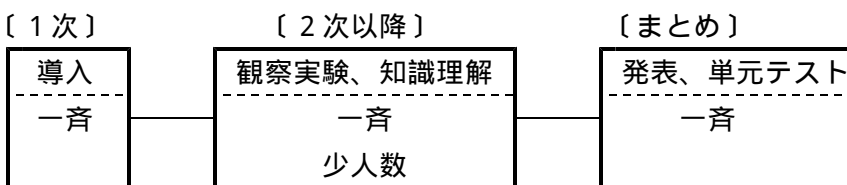
〔社会科〕



〔数学科〕



〔理科〕



〔英語科〕



〔保健体育科〕



数学科学習指導案

【資料】

別資料を参照。

英語科学習指導案

【資料】

別資料を参照。

2年数学科「5 図形と合同」の単元での評価の実際

【資料】

観点	関心・意欲・態度			見方や考え方				表現・処理				知識・理解			
氏名															
あ		A	AA	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A
い	B	BA	A	A	B	A	A	B	A	A	A	A	B	A	A
う		A	A	B	BA	A	A	A	B	A	A	A	A	B	A
え	B	B	A	CB	B	B	B	B	B	BA	A	B	B	A	A
お		B	B	B	CB	CB	B	B	B	B	CB	CB	B	B	B

注) 空欄は、「おおむね満足できる」状況(B規準)と判断される状況であるが、「十分満足できると判断される視点(A規準)との判断が付きにくい場合を表している。

「CB」は、「努力を要すると」判断された生徒に対して、その後手だてをした結果B規準になったと判断した場合である。「BA」は、B規準からさらに質的な高まりや深まりが見られA規準になったと判断した場合である。

平成15年度 第2学年〔数学科〕年間指導計画

【資料】

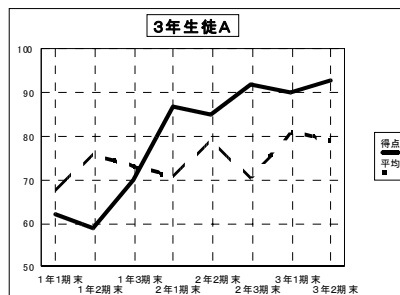
月	時	単元	主題・学習内容	備考(指導形態、準備物、達成度等)					
				指導形態	評価方法等	ア	イ	ウ	エ
4	1	1 式 の 計 算	同類項の意味と同類項をまとめること	T・T	観察小テスト				
	2		文字の式に関連した用語の意味	T・T	小テスト				
	3		かっこをはずして同類項をまとめる	少人数	小テスト				
	4		単項式と多項式との乗法の計算	少人数	小テスト				
	5		やや複雑な単項式と多項式の乗法の計算	少人数	小テスト				
	6		分数式の計算	習熟度	小テスト				
	7		単項式の乗法の計算	少人数	小テスト				
	8		単項式の除法の計算	少人数	小テスト				
	9		単項式の乗法・除法の混じった式の計算	習熟度	小テスト				
5	10	1 計 算	練習問題	習熟度	ノート				
	11		数量の関係を文字式で表して考える	少人数	観察ノート				
	12		数の性質を文字式で表して考える	少人数	ノート				
	13		数の性質を文字式で表して考える	少人数	小テスト				
	14		等式の変形	少人数	小テスト				
	15		練習問題	習熟度	ノート				
	16		単元末問題	習熟度	ノート				
	17		課題学習(カレンダーの規則)	T・T	ノート				
	18		単元末テスト	一斉	単元末テスト				

## 生徒個人の単元末テストと観点別評価

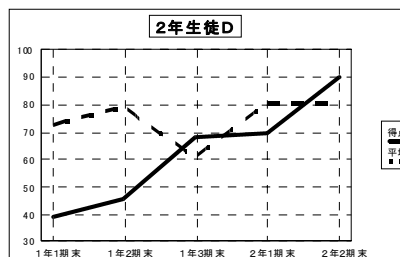
【資料】

〔数学科〕

3年生徒 A	得点	平均	観点別
1年1期末	62	67.6	BBBB
1年2期末	59	76.1	BBBB
1年3期末	70	73.2	ABBB
2年1期末	87	70.9	AABB
2年2期末	85	78.9	AABB
2年3期末	92	70.3	ABAB
3年1期末	90	80.9	BAAA
3年2期末	93	79.1	AAAA

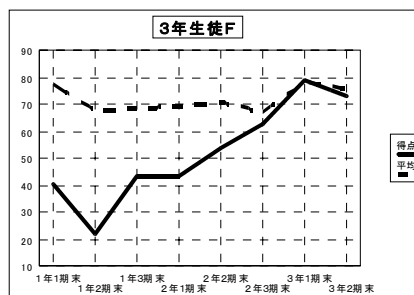


2年生徒 D	得点	平均	観点別
1年1期末	39	72.3	BBBC
1年2期末	46	79.0	BBBB
1年3期末	68	61.3	BBBB
2年1期末	70	80.8	ABBB
2年2期末	90	80.4	ABAB

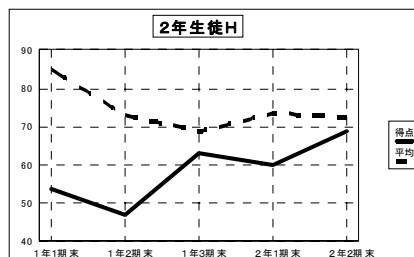


〔英語科〕

3年生徒 F	得点	平均	観点別
1年1期末	41	77.7	BCBB
1年2期末	22	68.4	BCBC
1年3期末	44	68.6	BCBB
2年1期末	44	69.9	BCBB
2年2期末	54	71.1	BBBB
2年3期末	63	67.1	BBBB
3年1期末	79	78.6	BABA
3年2期末	73	76.0	BBAB



2年生徒 H	得点	平均	観点別
1年1期末	54	85.3	BBBB
1年2期末	47	72.9	BCBB
1年3期末	63	69.1	BBBB
2年1期末	60	73.8	BBBB
2年2期末	69	72.7	BBBA

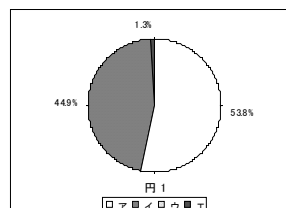


## 習熟度別授業についての生徒アンケート

【資料】

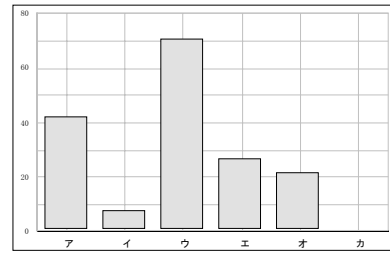
1. 数学や英語の、「基本コース」と「普通・発展コース」の習熟度による授業について、あなたはどのように思いますか。

- ア、良い ... 53.8%
- イ、どちらかというが良い... 44.9%
- ウ、どちらかというが悪い... 0%
- エ、悪い ... 1.3%



2 . 1で「良い,どちらかというが良い」に 印をつけた理由を教えてください。(複数回答可)

- ア、自分の力を伸ばしたいから ... 42.3 %
- イ、発展問題をたくさんやりたいから... 7.7 %
- ウ、自分のペースで勉強したいから ... 70.5 %
- エ、復習問題を先生の説明を聞いて ... 26.9 %  
ゆっくりやりたいから
- オ、授業中分からなかった問題を ... 21.8 %  
もう一度やりたいから
- カ、その他( ) ... 0 %



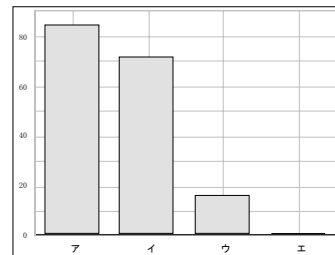
3 . 1で「悪い,どちらかというが悪い」に 印をつけた理由を教えてください。(複数回答可)

- ア、どちらを選ぶか迷うから... 0 %
- イ、教室の移動が面倒だから... 1.3 %
- ウ、授業がわかりにくいから... 0 %
- エ、その他( ) ... 0 %



4 . 来年もこのような授業があった方が良いと思いますか。(複数回答可)

- ア、来年も数学であった方が良い ... 84.8 %
- イ、来年も英語であった方が良い ... 71.8 %
- ウ、来年も他の教科であった方が良い... 16.7 %
- 教科名(理科5名、社会2名、国語1名)
- エ、なくした方が良い。 ... 1.3 %



5 . 習熟度による授業に対する感想を書いてください。

- ・英語は「発展コース」を選ぶけれど、数学は「基本コース」があってくれと、授業で分からなかったことを先生に聞けるからいい。(1女)
- ・あった方がよい。授業で分からなかったところが「基本コース」でよく分かる。(1女)
- ・「基本コース」だと発言しやすい。(2男)
- ・習熟度をした方が、分からない所も分かるようになるから、私には絶対必要。(2女)
- ・「基本コース」と「普通・発展コース」があって、自分の力を伸ばせたから良い。(3男)
- ・苦手な英語が分かってきたので、今は英語の習熟度があって良かったと思う。(3女)
- ・自分の苦手な所の復習が、「基本コース」でできるからいいと思う。(2女)
- ・自分に合わせて、自分のペースで授業ができるのでいいと思う。(3女)
- ・自分でどれくらい分かっているかで、「基本コース」と「普通・発展コース」を選べるのでいいと思う。(3女)
- ・自分のペースで進めたりできるのでいいと思う。(1男)
- ・発展問題のプリントをするのが楽しい。(2男)
- ・「発展コース」だと自分でいっぱい問題などをやっていけるから良い。(1女)